提出日：　　　年　　　月　　　日

認知症研修認定薬剤師制度 症例報告書

登録番号（　　　　―〇　）〇は、提出症例で1，2，3と記載してください。

分野記入：　□　早期発見・早期介入、□　医薬品の適正使用、　□介護、ケア連携分野　□その他

所属　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　名前　　　　　　　　　　　　　　　　薬剤師経験年数

タイトル　　（例）処方提案を行い、半年後　介護度が３～要支援１になった事例

要旨（400字以内）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 1. 基本情報 | ①患者 | イニシャル： 　　　　　　年齢： 　　　　　　代　　　性別： |
| ②現病歴（既往歴） | ・薬局の場合は、処方箋のみの情報で把握できない場合は、担当医等に確認。  ・認知症の根拠（診断方法）も記載してください。  ・認知症の重症度（軽度、中度、高度）も記載してください。 |
| ③検査値等  （日付を入れて変化を記載） |  |
| ➃日常生活自立度 | 自立、一部介助、全面介助を記載  移動：　　　　　　　　入浴：  食事：　　　　　　　　更衣：  排泄：　　　　　　　　整容：  認知症高齢者の場合は、認知症高齢者の日常生活自立度（　　）  （追加で記載もの可能です。）  上記情報入手先・人（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| ⑤介護度 |  |
| ⑥状況 | 入院　　　・　　　通院　　　・　　　在宅　　　・　　　施設　　　・　　その他  ・服薬管理が、誰が行っているのか　その状況も記載してください。  ・独居の場合は、ケアを行うのでは誰か　、キーパーソンは誰かを記載してください。 |
| ⑦家族の状況 |  |
| ⑧患者の特徴  （性格や医療者との人間関係等） |  |
| ⑨薬剤師としての考え  （介入視点） | ※アドヒアランスの向上のみは不可（薬学的視点を含めてください） |
| 2.薬剤管理指導実施状況 | ①担当期間 |  |
| ②指導回数 | 申請薬剤師本人が実施した回数 |
| ③指導した場所 | 病院　・　薬局　・　在宅　・　その他（　　） |
| ④カンファレンス  参加状況 | 定期参加　・　　臨時参加　　・　　不参加 |
| ⑤連携職種 | 2職種以上と連携が望ましい。 |

３、使用薬剤

|  |  |
| --- | --- |
| 薬剤師介入前の使用薬剤（OTC、サプリメント含む） | 薬剤師介入後の使用薬剤（OTC、サプリメント含む） |
| ※用法・容量も記載すること | ※用法・容量も記載すること |

４、院内状況（病院薬剤師のみ記載）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 基本情報 | 1. 担当患者 | 有　・　無　（無の場合理由：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| 1. 担当期間 | 有　・　無  期間（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| 1. 指導・ケア場所 | 院内　　　・　　　窓口　　　・　　　在宅 |
| 1. チーム医療 | 有　・　無  内容（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| 1. 退院時指導   連携職種 | 有　・　無  内容（実施した場合の内容説明） |
| 指導状況 | ※院内の状況によって、担当患者とのかかわり方、薬物療法の方針、病棟活動の状況を記載して介入状況の情報提供として下さい。担当患者を持たなく、「疑義照会」のみは介入とは認められないため病院状況を説明追加。 | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 5.薬学的管理おける課題、介入の内容と評価  （アセスメント） | **問題点1（概要）：** | |
| 介入前の状況 |  |
| 介入の内容 |  |
| 介入後の評価 |  |
| **問題点２（概要）：** | |
| 介入前の状況 |  |
| 介入の内容 |  |
| 介入後の評価 |  |
| ※問題点が２つ以上の場合は、行を増やしてください。 | |
| 6・担当薬剤師  としての考察 |  | |
| ７．引用文献記載欄（番号順） |  | |

※引用文献（日本薬局学会の投稿規定の引用文献の記載に従い記入）

引用文献の記載方法はガイドラインの場合、雑誌の場合、単行本の場合、WEBサイトの場合と記載が異なるために規定に従う。ただし、「ガイドライン」引用は①ガイドライン名、記載章以下の特定できるタイトル名を記載する。

日本薬局学会HP（会員）＜学会誌薬局薬学＜薬局薬学投稿規定＜8．原稿作成＜引用文献（ただし「ガイドライン」記載なしのため「症例書き方セミナーのPPTに従う。）https://secure.ps-japan.org/journal/lucubration.html

例）岩城正宏：薬物相互作用，わかりやすい生物薬剤学，第4版，辻　彰編，東京，廣川書店，2008，275p．

2023年1月13日作成　Vol.6

※ 2023年度は2例以上の「症例報告」提出を推奨します。別紙の「施設訪問報告」は今年度に限り提出不要。

※ メールの件名を「認知症症例報告(氏名)」　と記載の上、左記の宛先([psdtrt@ps-japan.org](mailto:dementia@ps-japan.org))へご提出をしてください。

※行が足りない場合は、各自で増やす。フォーマット上の例文等は削除して良い。